

## 【概要】

葛利毛織工業株式会社は、明治期から織物の生産が盛んである一宮市木曾川町の木曾川沿い玉ノ井地区に所在する。この地域では、明治初頭に<sup>かすりおりもの</sup>緋織物の製織がはじまり、県内有数の<sup>もめんがすり</sup>木綿緋、<sup>けんめんこうしよく</sup>絹綿交織<sup>がすり</sup>緋の産地となった。その後、大正期を通じて絹綿交織の織物生産が盛んであったが、昭和初期には毛織物業が中心となった。葛利毛織工業株式会社は大正元年(1912)に創業し、<sup>けんめんこうしよくがすり</sup>絹綿交織緋などの生産が行われていたが、大正末期の力織機の導入を契機として、毛織物の生産が開始された。その後昭和に入ると、四巾力織機が導入され、サージ<sup>2</sup>等の生産が行われた。

葛利毛織工業株式会社の建造物群は、このような毛織物の増産に応じて、関連建物を増築し、経営状況の変化に応じて用途を変えながら現在の景観を形成してきた。

「工場」は敷地北側に建つ、特徴的な<sup>のこぎり</sup>鋸形の屋根と採光のための高窓が付いた建物である。現在は4スパン(<sup>のこぎり</sup>鋸屋根の1単位を1スパンと数える)から成るが、当初は北側2スパンのみの建物であった。昭和20年(1945)頃に南側へ2スパン増築され、その後昭和30年代になると敷地形状に合わせて更に東西に増築された。工場は当初から現在まで織布生産を行う建物として用いられており、葛利毛織工業株式会社の建物のうち最も中心的な建物であると言える。

「事務所」は敷地南端中央の門を入れて西側に建つ、工場と同時に建てられたと伝えられる建物である。木造2階建、<sup>よせむねづくり</sup>寄棟造<sup>したみいた</sup>棧瓦葺で、1階を1室とし、2階は南北に10畳間を2室並べる。外観は下見板<sup>4</sup>張の洋風であるが、2階の主座敷には床の間と床脇を備えており、和と洋の要素が組み合わされている。

「主屋」は敷地南端中央の門を入れて東側に建つ、木造2階建、<sup>よせむねづくり</sup>寄棟造<sup>したみいた</sup>棧瓦葺の建物である。南側の東西方向の住居部分と、北側の南北方向の倉庫部分をL字形に繋いでいる。建設当初は東西棟を工場主の住居部分とし、南北棟は女子寮として用いられていたが、現在は1階北側を倉庫とし、その他の部分を住居部分として用いられている。職住一体の工場施設の様相を伝える建物である。

「離れ」は事務所の北西に位置する、経営者家族が居住する建物である。木造2階建、<sup>いりもやづくり</sup>入母屋造<sup>したみいた</sup>棧瓦葺の建物で、四周に<sup>げや</sup>下屋<sup>6</sup>を回し、隣接する事務所と南東隅で接続している。内部の1階主座敷には床の間と平書院を設けている。昭和25年(1950)頃に1階東面北側に物入を、昭和50年(1975)頃に2階に便所、台所等を増築しているが、用途は当初から現在まで変わらず住居として用いられている。

「男子寮」は工場の南東に建つ、木造2階建、<sup>よせむねづくり</sup>寄棟造<sup>したみいた</sup>棧瓦葺の建物である。建築当初は南北方向の主体部が建ち、昭和32年(1957)頃に2階北東側に一室増築した。現在は工場への通路と糸が置かれる倉庫として用いられているが、当初はその名のとおり男子寮として用いられており、住込みで働いていた時代の様相を伝える工場の付属施設である。

「旧浴場及び便所」は、木造平屋建、<sup>きりづまづくり</sup>切妻造<sup>したみいた</sup>棧瓦葺の、工場の南東、男子寮の東に位置する建物である。漆喰塗仕上げで、腰壁をモルタル<sup>7</sup>塗りで仕上げられる。西側に浴場が配され、浴場は更に東西に分かれ、東を男子浴場、西を女子浴場とする。現在は男子浴場は物置、女子浴場は糸置き場として用いられており、建築当初とは用途が変更している。便所は通路を挟んで東側にあり、個室が南北に並ぶ。当初の個室は3室であったが、昭和30年代に北側に2室増築された。

「土蔵」は工場と離れの間に建つ、土蔵造2階建、<sup>きりづまづくり</sup>切妻造<sup>したみいた</sup>棧瓦葺の建物である。江戸時代末期に建築されたと伝えられており、元々は東隣の本家に建っていたものを現在の位置へ<sup>ひきや</sup>曳家をしたとされている。北及び東面には<sup>げや</sup>下屋<sup>6</sup>が廻るが、建築年代は不明である。土蔵の内部は家財蔵、<sup>げや</sup>下屋<sup>6</sup>部分は工場の倉庫として用いられている。

「原糸倉庫」は敷地西端の、工場と倉庫の間に建つ木造平屋建、切妻造<sup>きりづまづくり</sup>建物で、外壁には下見板を張り、屋根にはセメント瓦を葺いている。内部は床板張の1室であり、周囲や中央には棚が設けられており、現在も原糸を保管している。

「倉庫」は原糸倉庫の南側に連続して建つ、木造平屋建、切妻造<sup>きりづまづくり</sup>の建物で、こちらも下見板張の外壁に、屋根にセメント瓦を葺いている。南北に長い長方形の平面形で、内部は東西の2室に分けられている。内部には棚が設けられており、建設当初から現在まで工場の倉庫として用いられてきた。

このように、葛利毛織工業株式会社は織物業で栄えたこの地域において、職住一体の経営形態の様相を今に伝え、今なお毛織物業を営む建物群であり、当地域の歴史的景観を形成している。

- 
- 緋織物<sup>1</sup> あらかじめ染められた糸(緋糸)を用いて文様を表すように織られた織物のこと。  
サージ<sup>2</sup> 梳毛糸を用いて綾織<sup>あや織</sup>りで織られた布地のこと。  
寄棟造<sup>3</sup> 4方向に傾斜する屋根面をもつもの。  
下見板<sup>4</sup> 建物の外壁仕上げの一種で、横板張りで上下の板材を少しずつ重なるように取り付けられた板。  
入母屋造<sup>5</sup> 上部に切妻造、下部に寄棟造を組み合わせた構造の屋根のこと。  
下屋<sup>6</sup> 建物を覆う大屋根より下に付ける差し出し屋根で、その屋根下の空間は雨除け、縁側となる。  
切妻造<sup>7</sup> 2方向に傾斜する屋根面をもつ屋根のこと。



葛利毛織工業株式会社 工場



葛利毛織工業株式会社 事務所



葛利毛織工業株式会社 旧浴場及び便所



葛利毛織工業株式会社 土蔵



葛利毛織工業株式会社 主屋



葛利毛織工業株式会社 離れ 1階主座敷



葛利毛織工業株式会社 男子寮



葛利毛織工業株式会社 原糸倉庫



葛利毛織工業株式会社 倉庫